

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4097900015		
法人名	医療法人 松本医院		
事業所名	グループホーム 朝日苑		
所在地	福岡県三潴郡大木町大藪186-1 (電話) 0944-75-8520		
自己評価作成日	平成25年5月27日	評価結果確定日	平成25年8月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1. 人権教育、啓発活動の観点から会議の重要性を上げ、毎月の各棟ミーティング、役職会議、全体会議を欠かさず行い、①人の話を心で聞く。②一方的な決めつけをしない。③互いに学び合う。これらをトレーニングしながら情報を共有していく。
2. 倫理規定としては朝日苑の品格を大切にする事。その中で①約束を守る。②危険な行動を慎む。③謙虚である。これらを旨としている。
3. 六つの業務（管理、計画作成、介護、看護、調理、防火防災）と四つの活動（地域交流、年間行事、委員会、研修計画）を柱として全職員がそれぞれ活躍の場を持ち、活達である事。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成25年6月28日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

苑の周りには田園風景が広がり、オレンジ色の屋根がひときわ目立つ平屋建ての洋風の建物で、小規模多機能型居宅介護事業所も併設されている。同じ地区に母体である医療法人の医院があり、医療との連携も図れ安心して生活できる環境が整っている。利用者の尊厳、安全を理念に掲げ、家庭的で温かみのある雰囲気の中、利用者主体のサービス提供に力を入れている。利用者一人ひとりが安心して生きがいを持って暮らせる工夫と、利用者や家族から信頼されている様子が随所にうかがえる。今後の発展が大いに望める事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳が実行できる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の実践キーワードを掲げ、毎朝申し送り後に唱和を行い、日常的のケアにキーワードに基づいたサービスができるよう心掛けている。	事業所独自の理念があり、職員全員で毎朝の申し送り時に唱和することで理念の実践へ向けて取り組んでいる。事業所内にも掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春と夏の防火週間の夜回りや自治会からの案内による公民館行事への参加、又、幼稚園や小学校の慰問、中学校の体験学習の受入れなど積極的に行き、交流している。	自治会に加入し、回覧板により地域の催しなどの情報を収集し、グランドゴルフ大会や防火週間の夜回りなどに参加している。また、事業所主催の花火大会に地域の方の参加があり、近隣の幼稚園、小学校、中学校からの慰問や職場体験なども受け入れ、地域と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やす事なく発信し続ける為、ホームページの開設や季節ごとの新聞を発行している。利用者様の状態変化については、お手紙や連絡帳でご家族へ報告を行っている。幼稚園、小学校の慰問、中学校、専門学校の実習やボランティア活動などの受入れも行っている。地域の自治会に入会する事により催し物の案内を頂き、昔遊びの会やグランドゴルフに参加させて頂いた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各々の立場で真剣に会議に向き合い、お茶を飲みながら和気あいあいと1時間半を過ごして頂いている。議題に委員からひと言という項目を設けたところ、より活発にお話が聞けるようになった。社会福祉士は今年精神福祉士の資格を取られ、更に幅広い情報やアドバイスが頂ける事を楽しみにしている。	2ヶ月に1回、定期開催している。利用者家族、町および包括職員、地域住民代表、学識経験者（社会福祉士）らが参加し、利用者やサービスの実情を報告している。専門的な意見をサービス向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して市町村担当者と情報交換を行っている。又、相談事があれば連絡をとったり、訪問したりする等して情報収集を行い、サービスの質の向上に活かしている。	行政、地域包括支援センターとは、運営推進会議や日常のやり取りのうえで親交を図っており、協力関係は築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お一人おひとりの身体能力、認知度、更には心理的問題行動に対応する為、身体拘束をしない事を前提とした介護支援を徹底している。その為には担当者を中心とした見守り、情報の共有、コミュニケーションを絶やさず行う事や定期的なミーティングでは、状態変化に伴うリスクマネジメントに取り組んでいる。	身体拘束に対するマニュアルはあり、内部研修もなされている。玄関に通じる扉などにはドアベルを設置、日中は施錠されていない。職員は利用者の精神状態を把握、見守りなどを行い、身体拘束しないケアが実践されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様との関わりによって現状を把握し毎日の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がるような言動については職員同士でも注意し未然に防げるよう努めている。また苑内勉強会でも虐待防止と徹底を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑ではまだ事例はないが苑内勉強会や研修参加を促し権利擁護に関する理解を支援できるように努めている。またいつ相談があってもいいようパンフレットを常備している。	権利擁護に関する制度についての内部研修もなされており、パンフレットや研修記録などがある。	成年後見制度についての説明は2年前に行われたため、契約時や来訪時など随時説明する機会を設けていただきたい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つ分かりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い、納得された上で同意が得られるよう努めている。又、法改正に伴い利用料が変更になる際は、料金改定前後の表と理由を記載した物をご家族に郵送して同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは常日頃から意見や要望がないか伺い、意見や要望の内容を会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。又、重要事項説明書に外部の相談窓口を記載しており、契約時に説明している。	利用者は日頃の会話により管理者や職員に意見や思いを伝えられている。家族も面会時に職員に提案や意向を口頭で話されている。意見箱も設置されており、事業所は意見を運営に反映させている。また、毎月1回利用者の生活状況を手紙で家族へ報告している。契約時に苦情の申し出先の説明を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使って隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。	管理者は、随時、日常業務や食事会、さらにアンケートを通して、職員が意見を言いやすい雰囲気への工夫や職員のアイディアを取り入れ、仕事に従事できるような配慮を行っている。異動や離職は最小限に抑えており、職員の交替の引継には1ヶ月の期間を確保する。今回の自己評価は全職員で話し合っており組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置や処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスの支給です。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用に当たっては経験と意欲を最重要視している。新人職員に対しては各棟の新人研修要綱に添って介護責任者を中心に担当者が指導にあたり、1ヶ月程度で一般業務から利用者様の個別対応まで細かに伝えている。常に現状に即した要綱を会議で検討し、フレッシュな内容に心がけ、研修を繰り返しながら周知を行い、OJTを支援している。	採用選考時には、性別や年齢等を理由に対象から排除することはなく、65歳の定年後も就労されている職員もいる。自己実現のための研修参加には事前にアンケートで意向を確認するなど、安心して働ける職場環境をとっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。	人権教育に関する外部の研修へ参加し、全体会議にて全職員へ報告。意識の統一を図っている。パンフレットや研修記録などもある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修としては円滑な業務のために必要と思われる研修を定め、月1回の全体会議の中で行う。又、専門講師を招いて1時間程度の研修会を年に数回計画している。一方苑外研修としては年間を通じ個人の希望と勤務に応じた研修と全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は1週間以内にレポートを書き、全体会議で発表する。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは個別に相互の相談、アドバイスをを行い連携を保っているが、同業者ネットワークへの加入は行っておらず、将来具体的に検討したいと思っている。又、身近にネットワーク作りに動きがある時は、いち早く協働したいと考えている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安、要望等を伺い、情報収集を行っている。困っている事や不安な事に関しては、本人様の話を傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、職員間で十分に検討して出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合はまず本人様及びご家族の意向や要望を伺い、「今一番に求められるサービスは何なのか」を見極め、小規模の利用や福祉用具、在宅酸素等の導入、他医療機関の通院等、様々な視点から出来る限りの対応ができるよう支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常日頃から生活の様々な場面で入居者様一人ひとりの能力や思いに気付く事ができるよう取り組んでいる。個々の能力や希望に応じて食器拭きや洗濯物たみ等のお手伝いをして頂いたり、一緒に買い物に行く等の支援を行う事で、共に生活を共有できるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月近況を記入したお手紙を出したり、行事等へ参加して頂く事により、入居者様とご家族との信頼関係を築く事が出来るよう取り組んでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親族に手紙を書かれる方がおられるので、職員が代行でポストに出したり、電話が掛かってきたり、入居者様の希望で電話を掛ける事があるので、取り次ぎのお手伝いをしている。	利用開始時に情報を収集し、馴染みの美容室へ出かけたり、書かれた手紙をポストへ投函するなど、利用者が希望されたら自由に行き来できるよう支援し、一人ひとりのつながりを大事にしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のできる入居者様は各々好きな時に好きな場所で会話を楽しまれている。又、意思疎通の困難な入居者様には出来る限り職員が寄り添い、声掛けや身辺介護を行う事で、孤立せずに皆様と同じように生活を過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、本人様の経過を伺う等して関係が途切れないよう努めている。又、状態が良くなれば再び苑に戻って来られるよう申込みして頂く事もある。		



項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様と生活を共にする事で、本人様の希望や意向を会話や表情等から把握できるように努めている。意思の疎通が困難な方はご家族との話の中から少しでも多くの情報を収集し、出来る限り本人様の意思に添えるように努めている。	事業所独自のアセスメント表を活用したり、日々の生活を共にすることで、希望や意向を会話や表情等から把握するように努めている。また、家族から少しでも多くの情報を得るようにして、できるだけ利用者本人の意思に添えるように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の作成やご家族からの情報を得て、生活歴や生活環境の把握に努めている。安心して生活できるように馴染みの物を持参して頂き、過ごしやすい環境作りに努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操や希望に応じて家事の手伝いをして頂いている。縫い物や読書、手紙を書いたり等、一人ひとりが望まれる生活を過ごして頂けるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるよう努めている。又、定期的にカンファレンスを行い、本人様にとって今、必要な事は何なのかを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画を作成している。状態が変わった場合はその都度、介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画が作成できるよう心掛けている。	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行い、カンファレンスにて、利用者本人にとって今最も必要なことは何なのかを検討し、できる限り利用者本人・家族の意向を取り入れ、計画作成している。状態変化の時は、その都度見直しを行い、現状に即した内容になるよう心がけている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や訪問歯科診療、買物支援等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の保育園の慰問や小学校の触れ合いクラブ、中学校の職場体験、銀行のプラスバンド、ピアノコンサート等の行事を通して、地域との交流を深め、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や本人様・ご家族の希望される医療機関が受けられるよう情報提供や円滑な受診が出来るよう支援している。またご家族様への日常生活での状態報告を行いご家族との関係を築き意見・要望を尋ね、希望される場合は受診支援も行っている。	利用者本人やご家族が希望するかかりつけ医・医療機関と連携をとっている。また家族付添いでの受診を協力いただき、困難な場合は事業所での受診対応も行っている。受診結果はご家族に連絡し共有している。かかりつけ医以外にも訪問歯科や眼科受診など、柔軟に対応でき、ご家族に毎月状態の報告を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ心身状態の変化や毎日のバイタル測定等の変化や疑問・気づきがあればその都度、看護師へ報告行い必要に応じてかかりつけ医へ報告し受診支援も行っている。状態変化時の連絡体制も整っており円滑な支援が出来るよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は早い段階で本人様を面会して状態把握に努め、同時に病院のソーシャルワーカーや看護師から情報収集を行っている。又、ご家族の希望を伺い、出来る限り希望に沿った形で退院できるよう病院へ連絡調整を行っている。退院時は速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについての苑での対応をご家族様へ説明し、本人様やご家族様の希望されるケアに望めるよう、医師・管理者・ケアマネ・看護師・職員・ご家族様との話し合いを行い、方針を共有し安心した日々をより良く過ごして頂けるよう支援している。	利用開始時に重度化や終末期に対する利用者本人・ご家族に事業所の対応方針を明確に説明をしている。状況変化に応じ、利用者本人・ご家族の希望するケアができるよう、医師・看護師・介護職等の関係者で繰り返し話し合っ合意を図り、全員で方針を共有し、安心した日々を過ごせるよう支援に努めている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時はマニュアルに沿って医師・看護師・職員間での連絡体制を行っている。又、消防署主催の救急手当てや蘇生技術等の研修や知識向上の研修にも参加し、実際の現場で活かせるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員の少ない夜間想定で行い、火元は当日、消防署員より設定して頂き訓練後は消防署員より講評を頂き確実な避難誘導が出来るよう取り組んでいる。当事業所のみでの災害時には地域の公民館を一時避難所として協力を得ており避難訓練の際には運営推進会議や地域の方にも声掛けし、食料や飲料水も備蓄している。	年2回の避難訓練を夜間想定で行い、1回は消防署立ち会いのもと避難訓練を実施し、消火器使用の説明を受けている。また、運営推進会議にて地域住民に参加を呼びかけている。夜勤者には意識付けを毎日行っている。非常用備品等は事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様からの日々の訴えや希望を基に月1回のミーティングで一人ひとりに応じた関わり方や充実した生活を送れるよう職員同士で話し合っている。親しみのある言葉（方言）と共に失礼な言葉掛けにならないよう注意している。	朝のミーティング・申し送りノートにて日々の希望や訴えを伝え、情報共有して関わり方や充実した生活を送れるよう職員同士で話し合っている。たとえ、トイレの失敗をしても周りの目に配慮し、親しみのある言葉で失礼な言葉かけにならないように注意している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で入居者様と関わりを持ち、表情や言動等から本人様の思い、希望を把握できるように努めている。又、介助や動作の前には声掛けを行い、希望や思いを引き出せるよう取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った過ごし方をして頂いている。好きな時に好きな物を食べられるよう支援し、食事の際には個人購入された好みのおかずも付けている。又、希望によりホットマグナーやメドマ等を利用されている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、歯磨き、整髪等の身だしなみは出来ない部分のみお手伝いをしている。美容は毎月1回の訪問により、希望者は髪のカットをして頂いたり、馴染みの美容院へパーマをかけたご家族と共に掛ける方もおられる。又、毎日を好きな服装で過ごして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食事を取って頂けるようにカレーが嫌いな方には肉じゃがにして提供する等、好みに応じて献立を変えている。誕生日には手作りケーキや本人様の好みの物を提供している。片付けはトレー拭きやお椀拭き等を手伝って頂いている。	調理スタッフをユニットごとに配置し、誕生日には手作りケーキを準備したり、カレーが苦手な方には肉じゃがに献立を変えたり、ペースト・トロミなど個別に対応し、職員は同じテーブルで食事を一緒に楽しめるようにしている。利用者は、野菜の皮むきやトレー・お椀ふき等のかたづけを手伝われている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を作成して1日1, 500ccの摂取を目標にし、水分摂取量が少ない方には水分補給を促している。又、毎月体重測定を行い、必要に応じて個別に栄養状態の管理を行っている。嚥下の悪い入居者様の状態に合わせてトロミを付けたり、軟らかい物や刻み食を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方は支援している。歯のない入居者様には、うがいやガーゼを使用して口の中の手入れを行い、歯茎、舌の清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人様に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている。又、夜間オムツを使用している方でも日中は紙パンツを使用し、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者本人に合わせた声かけやトイレ誘導を行っている。また、夜間にオムツを使用している方でも日中は紙パンツを使用し、できるだけトイレにて排泄できることを目指して日々支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄・食事・水分摂取量等のチェックを行い、排泄習慣を把握し、自然排便を促すためラジオ体操や散歩など身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。必要時には医師へ相談し便秘予防にも努めている。また食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品を取り入れ調理している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入居者様一人ひとりに入浴の声掛けを行い、本人様の希望に応じた入浴支援を行っている。体調不良により入浴できない場合は清拭や洗髪を行っている。又、希望時には足浴も行っている。	前日に入浴されていない方を優先に希望を取りながらも、入浴を拒否される場合は無理に強いせず様子を見ながら、入りたい方は毎日入浴できる体制を整えている。また、足が冷えるからと、通常の入浴とは別に足浴を行ったり、入浴剤を使って入浴を楽しめる工夫を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムを崩さないようにテレビ観賞や入浴、将棋、午睡等、本人様のペースで生活して頂けるよう支援している。又、シーツ交換や寝具調整、室温に配慮する事で安眠に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報により用法・用量・目的・副作用等の情報をいつでも確認できるよう綴っている。また誤薬や飲み忘れがない様一包化して頂き日付・氏名・服用時を表記して準備時・配布時の確認と声を出して読み誤薬防止に努めている。確実な服薬で日常の状態変化を把握し必要時には報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	恒例のピアノコンサートやボランティアによるプラスバンドの演奏会、保育園の慰問等も楽しんで頂いている。又、入居者様一人ひとりの能力や希望に応じて裁縫をして頂いたり、一緒に散歩や買い物に行く等して気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	郷土の自然に触れて頂く為、ドライブを兼ねて花見を行っている。又、朝日苑まつりには花火大会を取り入れたり、4月の行事である恒例のパスハイクでは、今年は大川の昇開橋温泉を利用して頂き、ご家族と一緒に食事やお風呂を楽しんで頂く事ができた。	週に1回程度買い物依頼を受け出かけたり、2ヶ月に1回ドライブを兼ねて花見に行っている。2年に1度行っている朝日苑祭りは、花火大会として実施したり、年1回パスハイクに出かけ、直近では大川の昇開橋温泉で家族と一緒に食事や温泉を楽しんでいただいている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かった金銭は苑で管理しており、お小遣い帳を作成してご家族に金銭使用状況を報告している。買い物を頼まれた時はそのお金から購入している。職員と一緒に買い物に出掛けて好きな物を購入して頂いたり、依頼された時は職員が代行で買い物をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様やご家族より電話の希望があった場合は子機を使用して居室で話して頂いたり、事務所から電話を掛ける等してプライバシーに配慮しながら支援を行っている。手紙を書かれた時は職員が代行で投函している。手紙が届いた時は本人様へ手渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには毎月の行事の際に撮影した写真を掲示して季節を感じて頂けるよう工夫している。又、トイレに行かれる際に分かりやすいよう貼紙をして案内している。日当たりが良いように窓を多く設けてあるが、日差しが強い時は日除けで遮光している。建物の構造では、二重ガラスの使用と高気密換気システムにより、温度・湿度、臭いのコントロールを行い、快適な室内環境となっている。	美化委員、園芸委員を中心に環境整備を行い、フロアには毎月の行事写真を掲示するなど季節感を工夫し、トイレ等の表示をすることで利用者への案内するなどしている。畳スペースで将棋をしたり、ウッドデッキにて日光浴ができる環境がある。また、建物の構造で二重ガラス・高気密換気システムにより、温度・湿度・臭いのコントロールを行い、快適な空間を作り上げている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースで将棋を楽しむ方やウッドデッキで日光浴をしながら音楽を聴かれる方、ソファに座ってテレビ観賞される方等、皆様それぞれに居心地の良い場所で生活を過ごして頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら以前自宅で使っておられた椅子を持って来て頂いたり、テレビや手紙を書くためのテーブルを持って来て頂く事で、本人様が居心地良く生活できるよう工夫している。	家族と相談しながら、利用者が以前自宅で使用していた使い慣れた馴染みの家具や写真・思い出の品等を持ち込んでいる。手紙や日記を書くためのテーブルや椅子の持ち込みがあったりと、利用者が居心地よく生活できるように工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの生活スタイルに合わせて車椅子やシルバーカー、手すり等を活用する事で、残存機能を活かした生活が出来るよう工夫している。又、常日頃から事故に繋がるリスクを考えながら環境整備を行う事で、安全に生活して頂けるよう取り組んでいる。老朽化による破損部分や不衛生となった物は細かくチェックして営業に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心、安全、尊厳が実行できる為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の実践キーワードを掲げ、毎朝申し送り後に唱和を行い日常的のケアにキーワードに基づいたサービスができるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春と夏の防火週間の夜回りや自治会からの案内による公民館行事への参加、又、幼稚園や小学校の慰問、中学校の体験学習の受入れなど積極的に行い、交流している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の介護実践の在り方をご家族や地域の方々へ絶やす事なく発信し続ける為、ホームページの開設や季節ごとの新聞を発行している。利用者様の状態変化については、お手紙や連絡帳でご家族へ報告を行っている。幼稚園、小学校の慰問、中学校、専門学校の実習やボランティア活動などの受入れも行っている。地域の自治会に入会する事により催し物の案内を頂き、昔遊びの会やランドゴルフに参加させて頂いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各々の立場で真剣に会議に向き合い、お茶を飲みながら和気あいあいと1時間半を過ごして頂いている。議題に委員様からひと言という項目を設けたところ、より活発にお話が聞けるようになった。社会福祉士様は今年精神福祉士の資格を取られ、更に幅広い情報やアドバイスが頂ける事を楽しみにしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して市町村担当者と情報交換を行っている。又、相談事があれば連絡をとったり、訪問したりする等して情報収集を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	お一人おひとりの身体能力、認知度、更には心理的問題行動に対応する為、身体拘束をしない事を前提とした介護支援を徹底している。その為には担当者を中心とした見守り、情報の共有、コミュニケーションを絶やさず行う事や定期的なミーティングでは、状態変化に伴うリスクマネジメントに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日常的な入居者様との関わりによって現状を把握し毎日の申し送りや毎月のミーティングで虐待に繋がるような言動については職員同士でも注意し未然に防げるよう努めている。また苑内勉強会でも虐待防止と徹底を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑ではまだ事例はないが苑内勉強会や研修参加を促し権利擁護に関する理解を支援できるように努めている。またいつ相談があってもいいようパンフレットを常備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つ分かりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い、納得された上で同意が得られるよう努めている。又、法改正に伴い利用料が変更になる際は、料金改定前後の表と理由を記載した物をご家族に郵送して同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からは常日頃から意見や要望がないか伺い、意見や要望の内容を会議にて検討し、出来る限り運営に反映させる事ができるよう努めている。又、重要事項説明書に外部の相談窓口を記載しており、契約時に説明している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による各棟ミーティングがあり、そこで出された意見や問題点を役職者会議によって討議し、議題や決定事項をまとめ、更にはホーム長参加のもと全体会議にてその内容をもとに話し合いを行う。又、行事報告、各委員会からの報告、苑内勉強会等、一時間を有効に使うべく隔々の声を拾い上げ全職員による情報の共有に努めている。この一連の流れを毎月欠かさず行うことによりマンネリ化しないリズミカルな職場環境が生まれ、モチベーションの向上に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会計士、労務士のアドバイスを受けながら就業規則にのっとった健全な運営に努めている。例えば勤務の中に各自希望の研修や有休が取れる人員配置や処遇改善交付金の活用、水準を下回らない給与、ボーナスの支給です。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集採用に当たっては経験と意欲を最重要視している。新人職員に対しては各棟の新人研修要綱に添って介護責任者を中心に担当者が指導にあたり、1ヶ月程度で一般業務から利用者様の個別対応まで細かに伝えている。常に現状に即した要綱を会議で検討し、フレッシュな内容に心がけ、研修を繰り返しながら周知を行い、OJTを支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営者は運営理念「ハーモニー」を作成し、その中で人権教育、啓発活動における介護の重要性や法令遵守等を述べ、勉強会や提示等により職員への周知徹底に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修としては円滑な業務のために必要と思われる研修を定め、月1回の全体会議の中で行う。又、専門講師を招いて1時間程度の研修会を年に数回計画している。一方苑外研修としては年間を通じ個人の希望と勤務に応じた研修と全職員が受ける事のできるシステムを確立している。受講者は1週間以内にレポートを書き、全体会議で発表する。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは個別に相互の相談、アドバイスをを行い連携を保っているが、同業者ネットワークへの加入は行っておらず、将来具体的に検討したいと思っている。又、身近にネットワーク作りに動きがある時は、いち早く協働したいと考えている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず本人様を訪ね、心身の状態や不安、要望等を伺い、情報収集を行っている。困っている事や不安な事に関しては、本人様の話を傾聴し、受容する事で安心して頂く事ができるよう心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にご家族からこれまでの生活歴や家庭での状態、思いや希望等を伺い、職員間で十分に検討して出来る限り思いや希望に沿ったサービス提供ができるよう心掛けている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合はまず本人様及びご家族の意向や要望を伺い、「今一番に求められるサービスは何なのか」を見極め、小規模の利用や福祉用具、在宅酸素等の導入、他医療機関の通院等、様々な視点から出来る限りの対応ができるよう支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は日々の生活の中でお互いに喜び学びあっている。おやつ作りではこんな時にこんな風に作っていたと昔話をされたり、外に出て季節を共感し、周りの田んぼの米や麦の生育経過を教えて頂いたり、畑で育てている作物の収穫を互いに楽しみにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様がより一層楽しく過ごせるようご家族に色々な行事に参加して頂くよう声掛けしている。又、ご家族宛に毎月1回請求書を郵送する際に入居者様の担当職員が苑での様子を書いたお手紙を出して共に本人様を支えて行く関係に努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺の住職様より月命日にお参りに来て頂いたり、友人、知人の方が面会に来られている。又、今まで行かれていた床屋へ出掛けられたり、遠方に在住してあるご家族様（息子）からのお手紙等、交流が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの表情やその日の状態に合わせてレクリエーションや個別会話等、楽しんで頂けるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご家族へ連絡し、本人様の経過を伺う等して関係が途切れないよう努めている。又、状態が良くなれば再び苑に戻って来られるよう申込みして頂く事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の思いや希望、意向を把握する事が不可欠。又、意思疎通が困難な入居者様は認知症だから無理と決めつけず、職員が意向、思いに関心を払い、把握する事に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れている為、過去、現在の状態を把握するよう努めている。一人ひとりの暮らしぶりが理解できるようその人に合ったサービスを見つけ、職員と入居者様との信頼関係を築きながら暮らしを捉えていくよう心掛けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの暮らしを注意深く観察していく事で状態が把握できるよう努めている。又、知り得た情報は職員間で共有して統一した個別のケアが提供できるよう取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族には日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるよう努めている。又、定期的にカンファレンスを行い、本人様にとって今、必要な事は何かを検討し、出来る限り本人様やご家族の意向を重視した介護計画を作成している。状態が変わった場合はその都度、介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画が作成できるよう心掛けている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有する事により統一したケアを提供できるよう努めている。又、個人記録やケアプラン実行表を基にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医療処置を受けながら可能な限り苑での生活を送って頂けるよう支援している。又、本人様やご家族の要望に応じて通院時の送迎や訪問歯科診療、買物支援等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の保育園の慰問や小学校の触れ合いクラブ、中学校の職場体験、銀行のプラスバンド等の行事を通して、地域との交流を深め、豊かな暮らしを過ごして頂けるよう努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診や本人様・ご家族の希望される医療機関が受けられるよう情報提供や円滑な受診が出来るよう支援している。またご家族様への日常生活での状態報告を行いご家族との関係を築き意見・要望を尋ね、希望される場合は受診支援も行っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じ心身状態の変化や毎日のバイタル測定等の変化や疑問・気づきがあればその都度、看護師へ報告行い必要に応じてかかりつけ医へ報告し受診支援も行っている。状態変化時の連絡体制も整っており円滑な支援が出来るよう努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は早い段階で本人様を面会して状態把握に努め、同時に病院のソーシャルワーカーや看護師から情報収集を行っている。又、ご家族の希望を伺い、出来る限り希望に沿った形で退院できるよう病院へ連絡調整を行っている。退院時は速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについての苑での対応をご家族様へ説明し、本人様やご家族様の希望されるケアに望めるよう、医師・管理者・ケアマネ・看護師・職員・ご家族様との話し合いを行い、方針を共有し安心した日々をより良く過ごして頂けるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時はマニュアルに沿って医師・看護師・職員間での連絡体制を行っている。又、消防署主催の救急手当てや蘇生技術等の研修や知識向上の研修にも参加し、実際の現場で活かせるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員の少ない夜間想定で行い、火元は当日、消防署員様より設定して頂き訓練後は消防署員より講評を頂き確実な避難誘導が出来るよう取り組んでいる。当事業所のみでの災害時には地域の公民館を一時避難所として協力を得ており避難訓練の際には運営推進会議や地域の方にも声掛けし、食料や飲料水も備蓄している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに応じた関わり方を検討し、名前を姓で呼ぶようにしており、言葉使用に注意している。又、毎日の業務の中で、職員間で話し合い、プライバシーを損ねないように心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で信頼関係を築き、本人様の思いや願いに気付けるよう努め、自己決定出来るよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれ新聞やテレビを観られたり、散歩や洗濯物たため、お椀やトレー拭き等、希望に沿った支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の行き付けの床屋や毎月の訪問美容を希望に合わせて利用して頂いている。身だしなみやおしゃれは本人様の希望に沿って支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をしながら献立等の会話をしたり、食前には嚙下体操を行っている。全員揃って食事を始め、音楽をかけた後、職員も間に入って一緒に楽しく食事が出来るよう支援している。又、行事の際は手作りおやつと一緒に作っている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,000～1,500cc（食事別）の水分摂取を目標にし、水分チェック表を作成して入居者様一人ひとりの水分摂取量の把握に努めている。又、毎月体重測定を行っており、必要に応じて入居者様一人ひとりに合った食事形態で提供し、栄養状態の管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや緑茶でのうがいの声掛けをし、個人の能力に応じた支援を行っている。又、義歯洗浄剤での清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間オムツを使用している方でも日中は排泄チェック表を見ながら排泄パターンに合わせてトイレの声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄・食事・水分摂取量等のチェックを行い、排泄習慣を把握し、自然排便を促すためラジオ体操や散歩など身体を動かす機会を多く持てるよう心掛けている。必要時には医師へ相談し便秘予防にも努めている。また食事には野菜、穀物、果物等の食物繊維が多く含まれる食品を取り入れ調理している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	当日の体調を見て入浴の声掛けを行っている。本人様の希望を考慮し、湯加減や入浴時間は個々の好みに沿った入浴の支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの状態や希望に応じて休みたい時間に就寝して頂いたり、寝付けない方がいる時は話相手になったりしている。又、居室の明かり等も本人様の希望に合わせて安心して休んで頂けるよう対応している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬剤情報により用法・用量・目的・副作用等の情報をいつでも確認できるよう綴っている。また誤薬や飲み忘れがない様一包化して頂き日付・氏名・服用時を表記して準備時・配布時の確認と声を出して読み誤薬防止に努めている。確実な服薬で日常の状態変化を把握し必要時には報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭き、お椀拭き、テーブル拭き、洗濯物たたみ等、自ら手伝って頂いたり、入居者様同士の昔話を楽しませている。又、天候の良い時は苑外を散歩する等して気分転換を図っている。嗜好品を希望された時は買い物に出掛けたり、職員が代わりに買って来ている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年ご家族へ声掛けし、バスハイクを行っている。又、季節感を感じて頂けるように四季の花を見に戸外へ出掛けている。買い物を希望される入居者様には一緒に買い物へ行き、自分の目で見て好きな物を購入できるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方は自分で管理して頂き、出来ない方は苑で管理している。希望時には一緒に買い物に出掛けている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかってきたり、入居者様から電話をかけて欲しいとの希望があった時は取り次いでいる。又、ご家族から手紙が届いた時は本人様に手渡し、読んで欲しいとの希望があれば代わりに読んで内容を伝える等の支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板に行事や誕生会の時に撮影した写真を掲示して、楽しんで頂けるよう工夫している。また、建物の構造では、二重ガラスの使用と高気密換気システムにより、温度、湿度、臭いのコントロールを行い、快適な室内環境となっている		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、フロアを自由に行き来され、テレビを観たり、会話されたりして過ごされている。また、畳スペースも設けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にクローゼットが備え付けてある。又、馴染みのタンスやテレビ等、持参された物を使いやすいように設置し、本人様の希望により配置転換したりして過ごしやすいように工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はもとよりトイレ内にも手すりを付けて自動で電気が点灯するように危険防止にも努めている。老朽化による破損部分や不衛生となった物は細かくチェックして営業に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない